



おおいだ豊後大野ジオパーク  
Oita Bungo Geopark

先人達の英知と情熱で受け継がれた「神楽」。  
舞手の鼓動や息づかいが伝わってくる神代の世界に触れる。

大分県豊後大野市

2026年度公演

# 神楽会館

KAGURAKAIKAN

## 入場料

一般 1,200円 中学生以下 500円  
(当日500円増)

※チケットは事前予約もしくは当日販売で受付致します。  
お問い合わせは神楽会館まで

4月

(第203回)  
一般公演

2026年 4月19日(日)  
12:30~15:30

出演団体 浅草流黒松神楽  
横堀岩戸神楽保存会  
予約開始日 2026年2月19日(木)

5月

(第204回)  
一般公演

2026年 5月17日(日)  
12:30~15:30

出演団体 浅草流大迫神楽  
長濱神楽保存会  
予約開始日 2026年3月17日(火)

6月

(第205回)  
一般公演

2026年 6月21日(日)  
12:30~15:30

出演団体 深山流朝地神楽保存会  
荻神社俵楽  
予約開始日 2026年4月21日(火)

7月

(第206回)  
一般公演

2026年 7月19日(日)  
12:30~15:30

出演団体 御嶽神楽  
予約開始日 2026年5月19日(火)

神楽会館  
神楽公演 協賛 /  ぶんごおおのエネルギー



浅草流黒松神楽

長濱神楽保存会



浅草流大迫神楽

深山流朝地神楽保存会



御嶽神楽

荻神社俵楽

横堀岩戸神楽保存会

チケット販売場所 豊後大野市神楽会館

主催/豊後大野市神楽会館 共催/豊後大野市、豊後大野市教育委員会

後援/NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・J:COM大分ケーブルテレビ・エフエム大分  
大分合同新聞社・朝日新聞大分総局・読売新聞西部本社・毎日新聞社・月刊シティ情報おおいだ

お問い合わせ/豊後大野市神楽会館 〒879-6903 豊後大野市清川町砂田810番地 TEL:0974-35-2372

神楽会館 検索 全席指定/288席(車いす席3席・介助者席3席)

神楽会館HP  ▲ホール内でのフラッシュ撮影及び、席を移動しての撮影は禁止といたします。

**【交通アクセス】**

- JR肥後本線利用の場合  
大分～豊後清川駅…50分  
豊後清川駅より…徒歩5分
- 車利用の場合  
大分から…50分  
豊後清川駅から…3時間  
大分空港から…2時間



4月  
(第203回)

一般公演

### あさくさりゅうくろまつかぐら 浅草流黒松神楽

犬飼町黒松阿蘇神社所属の神楽座。大野町川北から約150年前に伝授されたと伝わり、明治35年には東京での公演を行うなど、古くから活動範囲は広く活発です。

浅草流の伝統的な持ち味である軽快さとスピード感に加え、舞の華麗さを信条としており、大野系岩戸神楽らしい勇壮さと美しさを併せ持つ舞いを得意としています。

### よこぼりいわとかぐらほぞんかい 横堀岩戸神楽保存会

横堀岩戸神楽は、波野集落の祭神である菅原神社の祭典とともに、その起源を同じくして発祥したものと伝えられています。

今から200年前の文政6年(1823)には、奉納された記録が残されており、その頃より代々舞い継がれてきたものと確認できます。

また、明治の末期から大正時代にかけて、特に隆盛を極め、幾多の名手を生み出し、近郷・近在の住民に親しまれ、五穀豊穡・家内安全・武運長久等を祈願して神楽が奉納されてきた活躍めざましい神楽座です。

5月  
(第204回)

一般公演

### あさくさりゅうおおさこかぐら 浅草流大迫神楽

大迫神楽は、明治5年に創始したといわれ、豊後大野市千歳町高添にある下の原天満社付きの神楽座です。千歳町浅草流3座の一角を占め、他の神楽座と同様に活発な活動を行っています。

昭和8年には神戸市生田神社での奉納舞いも行っており、浅草流の特徴であるスピード感を持ち味としながら、古式善とした堅実な舞いを得意とし、その独自性を保っている神楽座です。

### ながはまかぐらほぞんかい 長濱神楽保存会

長浜まつりで名高い大分市長濱神社に属する豊後流の神楽座です。昭和28年に豊後神楽保存会として発足、平成元年に長濱神楽保存会に改名して現在に至ります。豊後流独特の短いバチを使い、軽快でテンポが速く、勇壮で力強い舞いが特徴です。地元長濱神社の祭りや奉納、各種イベントに多数出演し、年間を通じて活躍しています。

6月  
(第205回)

一般公演

### ふかやまりゅうあさじかぐらほぞんかい 深山流朝地神楽保存会

大野系岩戸神楽3流派のうち、深山流岩戸神楽を継承する神楽座です。

深山流の神楽は、文字通り朝地町深山八幡社より興った神楽で36番という大野系でも最大の演目数を有しています。

しかし、過疎化によって継承活動が危機的な状況になりましたが、昭和41年には県の無形民俗文化財の指定を受け、今では朝地神楽保存会と改称して創立以来の誇りを忘れずに保存、継承活動を続けています。

### おきじんじゃりがく 萩神社俵楽

萩神社俵楽は江戸時代より岡9座のひとつで、当時は神職が神楽を舞っていたという記録があります。

明治時代初期に朝地町の深山流神楽が伝わり、それが地域に根付き、萩神社に奉納されるようになりました。また、有名な「ゆたて神楽」は昭和41年に県の無形民俗文化財に指定され、昭和47年には第1回日本岩戸神楽大会に大分県代表として出場、昭和57年には大分県神楽大会において第1位を獲得しています。毎年9月の例大祭での奉納や、波野神楽フェスティバルや、各種イベント等に出演するなど輝かしい経歴があります。

7月  
(第206回)

一般公演

### おんだけかぐら 御嶽神楽

宝徳元年(1449)大友親隆公がこの地に御嶽神社を勧請した際に発祥したといわれる神楽です。平成19年に国の重要無形民俗文化財に指定され、その調査研究事業により江戸時代後期に当時の神主加藤筑後守長古により、現在ある形の大野系岩戸神楽の原形が創られたことがわかり、無形の民俗文化財として、学説的な裏打ちがなされ貴重な芸能となっています。一時その存続さえも危ぶまれた時期もありましたが、当時の清川村あげでの保存運動によって復活。御嶽流神楽大会、大分県総合文化センターでの単独公演、国際民俗フェスティバルの出演など活発に活動しています。